平成 30 年度
福島県 大学生の力を活用した集落復興支援事業

喜多方市本村地区調査報告書

獨協大学地域活性化プロジェクト大坪チーム

指導教員 経済学部経営学科 大坪 史治

[目次] ページ

1．はじめに……1
2．喜多方市本村地区の概要……3
2.1．本村地区の位置
2.2．歴史
2.3．行政区分
3．喜多方市本村地区の現状……5
3.1．本村地区の人口
3.2．本村地区の地域的特性
3.2.1．気候・地理的要因
3.2.1a 本村地区の地形
3.2.1b 本村地区の降雪
3.３ 本村地区の暮らし
3.3.1．通学・通勤・交通手段
3.3.2．鳥獣被害
3.3.3．交通
3.3.4．ヒアリング調査結果
3.4．本村地区の産業
3.4.1．農業の概観
3.4.2．稲作
3.4.3．そば・山菜
3.5．本村地区の地域資源
3.5.1．親子桜
3.5.2．フットパス
3.5.３．棚田
4．本村地区の抱える問題と課題……15
4.1．現地調査から得られた問題点
4.2．取り組むべき課題
5．課題解決のための提案……16
5.1．フットパスコースの整備とエコツアーの企画・開催
5.2．雪かきボランティアとボブスレー大会の開催・企画
5.3．餅つき大会の開催・企画
5.4．案山子の設置
5.5．獨協大学におけるそば同好会の設立
5.6．高郷中学校寮の利活用の提案
5.7．物産展の開催

5.7.1 獨協大学学園祭での物産展実施
5.7.2 埼玉県草加市のふささら祭りでの物産展の実施

6. おわりに……22

1.はじめに

2018 年度、福島県が募集する「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に獨協大学は経済学部国際環境経済学科長の米山昌幸教授の呼びかけにより参加した。獨協大学地域活性化プロジェクト大坪チームは、経済学部経営学科の大坪史治准教授の指導のもと、福島県喜多方市高郷町本村地区との連携を結び活動している。喜多方市本村地区を担当する大坪チームは、猪爪麻衣子（学生代表：フランス語学科２年）、窪谷ちひろ（副代表：英語学科２年）、清野芽生（フランス語学科２年）、飯田佳暖（同１年）、佐野莉緒（国際関係経済学科１年）、松柴有芽（同１年）、宮本圭（同 1 年）の 7 名からなるチームである。大坪チームは３回にわたり本村地区に現地調査に入っており、第１陣が 9 月 12・13 日に、第２陣が 10 月 20・21 日に、第３陣が 2 月 23・24 日に現地調査を実施した。

第１陣　平成 30 年度 9 月 12 日（水）～9 月 13 日（木）

9 月 12 日(水)	
9:00～12:00	集落の獣害被害地の視察
12:00～14:00	昼食(物江氏宅にてピザ窯でピザ焼き体験)
14:00～15:30	開会・地区住民との顔合わせ・オリエンテーション
15:30～17:00	村歩き
17:00～18:30	温泉保養施設「ふれあいランド高郷」視察を兼ねて入浴
18:30～20:30	本村集会所にて地域住民との交流会(夕食会)
20:30～22:00	チームミーティング
9 月 13 日(木)	
9:00～10:30	本村集会所にて朝食・準備等
10:30～12:00	集落個別訪問(2 班に分かれ高齢者世帯等を訪問し話し合いを行う)
12:00～13:00	そば打ち体験
13:00～14:30	昼食(自分たちで打ったそばと名人のそばの食べくらべ)
14:30～15:00	チームミーティング(集落個別訪問のつづき)
15:00～16:30	閉会

第１陣では本村地区の全戸ヒアリング調査を行った。それを通して、畑の鳥獣被害で困っていることや、豪雪で冬はとても厳しいこと、若者が少なく地区の存続を懸念する声が多いことが分かった。また、集落の探索し、地滑り防止のためのライナープレートの視察、フットパスコースの視察、柿狩りを行った。さらに本村地区のそば粉を使ったそば打ち体験を行った。

第２陣　平成 30 年度　10 月 20 日～10 月 21 日

10 月 20 日(土)	
9:00～10:30	本村地区のフットパスの現地視察
10:30～12:00	昼食(物江区長宅にてピザ窯でピザ焼き体験)
12:00～14:00	開会・地区住民との顔合わせ・オリエンテーション
14:00～15:00	集落個別訪問(全戸ヒアリング調査の続き)
15:00～17:00	温泉保養施設「ふれあいランド高郷」視察を兼ねて入浴
17:00～18:30	本村集会所にて地域住民との交流会(夕食会)
18:30～20:00	チームミーティング
10 月 21 日(日)	
9:00～10:30	集落個別訪問(全戸ヒアリング調査の続き)
10:30～12:00	貝沼時男さんによるそば打ち体験教室
12:00～13:00	昼食(自分たちで打ったそばと名人のそばの食べくらべ)
13:00～13:45	集会所片付け・閉会

第２陣では、そば粉を使ったピザの試作を行った。また前回に引き続き本村地区全戸ヒアリング調査を行った。２日目はそば打ち体験を行い、自分たちが打ったそばと地区の方が打ったそばの食べ比べをした。

第３陣　平成３１年　２月 23 日～2 月 24 日

２月２３日(土)	
10:00～12:00	本村集会所除雪作業
12:00～13:00	昼食
13:30～16:00	冬山フットパス、そり乗り
16:30～17:20	温泉保養施設「ふれあいランド高郷」視察を兼ねて入浴
17:30～18:30	調査発表会、意見交換
18:30～20:00	本村集会所にて地域住民との交流会
20:30～22:00	チームミーティング
２月 24 日(日)	
9:00～10:00	本村集会所にて朝食・準備等
10:30～12:00	意見交換後チームミーティング
12:00～13:00	餅つき大会
13:00～14:00	昼食
14:45～	集会所片付け・閉会

第３回目実態調査では、本村地区の除雪作業を実施した。また本村地区住民の皆さんに向けて今

年度の活動報告と次年度の活動予定と提案を報告した。二日目の午前中には本村地区の皆さんとの意見交換を行い、今年度物産展に出す農作物などを話し合った。そして餅つき大会を実施し、ついた餅は本村地区の皆さんと一緒においしくいただいた。

その他の活動として、11 月 2・3 日に獨協大学の学園祭「雄飛祭」に参加した。そこでは、地区の知名度を上げるために、本村地区についての壁新聞を展示した。また、喜多方市のパンフレットを無料配布し、喜多方トートバックを配布して、観光 PR を行った。12 月には本学で開催している「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2018”」において、他の地域活性化プロジェクトの大竹チーム・米山チームと共同して福島県集落復興支援事業物産展を開催し、本村地区からはエコ米を販売し、同時に掲示物を作成し本村地区の魅力を発信した。

2.喜多方市本村地区の概要

2.1. 本村地区の位置

図表 1　喜多方市の位置

【出典】喜多方市ホームページをもとに作成

図表 2　本村地区と荻野駅、喜多方駅の位置

【出典】国土地理院「地理院地図」に加筆して作成

本村地区は近くに国道 459 号が通っており、喜多方駅から 13 km、最寄駅の JR 萩野駅から 3 kmのところに位置する。（図表 2 参照）人口は 43 人で、13 世帯であり、一級河川の深山川の東に沿いに集落が密集する。高齢化率は 53%と非常に高く、標高は約 250 メートルであり、主要は農業で主に稲作が盛んである。集落は山に囲まれており斜面が多いことから棚田も多くみられる。

2.2. 歴史

1889 年 4 月 1 日に、町村制の施行により、片門村、河沼郡高寺村、東松村、山郷村、新郷村、千咲村が発足。後の本村地区にあたる場所は山郷村に属していた。そして 1954 年に、片門村、河沼郡高寺村、東松村が高寺村という名前で合併された。1955 年には、高寺村と、山郷村、新郷村、千咲村が高郷村に統合された。さらに 1960 年には、旧高寺村が、河沼郡会津坂下町となった。以下の図はその変遷を表している。

図表 3　変遷表

<table>
<tr><th>1889 年（明治 22）年 4 月 1 日</th><th>1954 年</th><th>1955 年</th><th>1960 年</th></tr>
<tr><td>片門村</td><td rowspan="3">高寺村</td><td rowspan="6">高郷村</td><td rowspan="3">河沼郡会津坂下町</td></tr>
<tr><td>河沼郡高寺村</td></tr>
<tr><td>東松村</td></tr>
<tr><td>・山郷村（後の本村地区にあたる場所）</td><td></td><td rowspan="3">高郷村</td></tr>
<tr><td>・新郷村</td><td></td></tr>
<tr><td>・千咲村</td><td></td></tr>
</table>

【出典】 区長提供資料を基に作成

2.3 行政区分

本村地区は、高郷村の 20 ある行政区のうちの 1 つであった。しかし、高郷村は、2006 年に、喜多方市、熱塩加納村、塩川町、山都町と合併し、新喜多方市を発足し、新しい喜多方市の合併特例区となった。そのため、普通地方公共団体としては廃止されたが、新たに高郷町という名前で呼ばれるようになった。以下の図表 4 は市町村が合併する際に発行された合併協議会の調整内容である。

図表 4　行政区の取り扱い

喜多方地方５市町村合併協議会の調整内容

協議事項	行政区の取扱いについて	関係項目	
調整方針	1　行政区の区域及び名称については、現行のとおり新市に引き継ぐ。ただし、同一の名称の行政区については、行政区を構成する住民の意向を踏まえ、合併時までに調整する。 2　行政区の組織については、現行のとおり新市に引き継ぎ、新たに新市を単位とする区長会連合会を置く。 3　行政区長の委嘱業務については、合併時までに調整する。		

５市町村の現況

喜多方市	熱塩加納村	塩川町	山都町	高郷村	備考
行政区数　１２１行政区	行政区数　３１行政区	行政区数　６７行政区	行政区数　３５行政区	行政区数　２０行政区	囲み書は名称の重複する行政区 【新町】 「あらまち」 「しんまち」 ・喜多方市 ・喜多方市 【赤崎林】 「あかさきばやし」 ・喜多方市 ・熱塩加納村 【大沢】 「おおさわ」 ・喜多方市 ・塩川町 【田中】 「たなか」 ・熱塩加納村 ・塩川町 ・高郷村 【大原】 「おおはら」 ・塩川町 ・高郷村
上町東、上町西、新仲町 本仲町、寺町一区 寺町二区、常盤町、末広町 昔原町、栄町、塗物町 下町南部、下町北部、幸町 御清水、月見町、緑町 新町、新道、西四ツ谷 東四ツ谷、南町、北町 桜町、ひばりが丘 東ひばりが丘 雇用促進住宅 花園町、押切南 村松第一区、村松第二区 村松第三区、常盤団地 松が丘、東桜ガ丘、清水台 南桜ガ丘、北桜ガ丘、高畑 中村、百目二貫分、吉志田 赤崎林、大荒井一区 大荒井二区、飯田、坂井 上三宮一区、上三宮二区 下三宮、見頃、岩沢、細谷	五目、根岸、鷲田、半在家、 岩尾、川原鉱山、若宮 山岩尾、五枚沢、板の沢 中川原、田中、上野、針生 大平、黒岩、大里、赤崎林 新崎、金屋、新村、野辺沢 日中、水沢、黒川、熱塩 栗生沢、宇津野、赤崎 御林、大森	第１区、第２区、第３区 第４区、第５区、第６区 第７区、第８区、第９区 第１０区、第１１区 第１２区、第１３区 第１４区、御殿場団地 大沢、赤星、貝沼、上遠田 下遠田、第六、沖、柴城 台、万力、東鎧召、西鎧召 能力、田原、大木、中ノ目 宮ノ目、反田、上利根川 下利根川、小出、別府 高木、新井田、源太、谷地 上江、藤の木、橋本前田 西常世、東常世、横道 中道地、上原、金森 中屋敷、南屋敷、松崎 竹屋、田中、紙子、刈麻 大原、唐沢、深沢、江添 馬場新田、金川、三橋 上窪、下窪、舘ノ内	木曽、広野、舘原、三ツ山 松ヶ丘、下川角、寺内 舟岡、小布瀬原、最明寺 一郷、川吉、上林、下村 川隅、洲谷、舟引、堂山 中反、宮古、藤沢、上藤沢 本木、賢谷、沼ノ平 早稲谷、下廻戸、撫木 一ノ木、川入、藤巻 河原田、宮月、堰沢 千咲原	西羽賀、夏井、川井、塩坪 漆窪、峯利田、池ノ原 [illegible]地、東羽賀、田中 大原、地[illegible]、三方、小土山 本村、[illegible]谷、西黄、吹荻 [illegible]、[illegible]湯津	

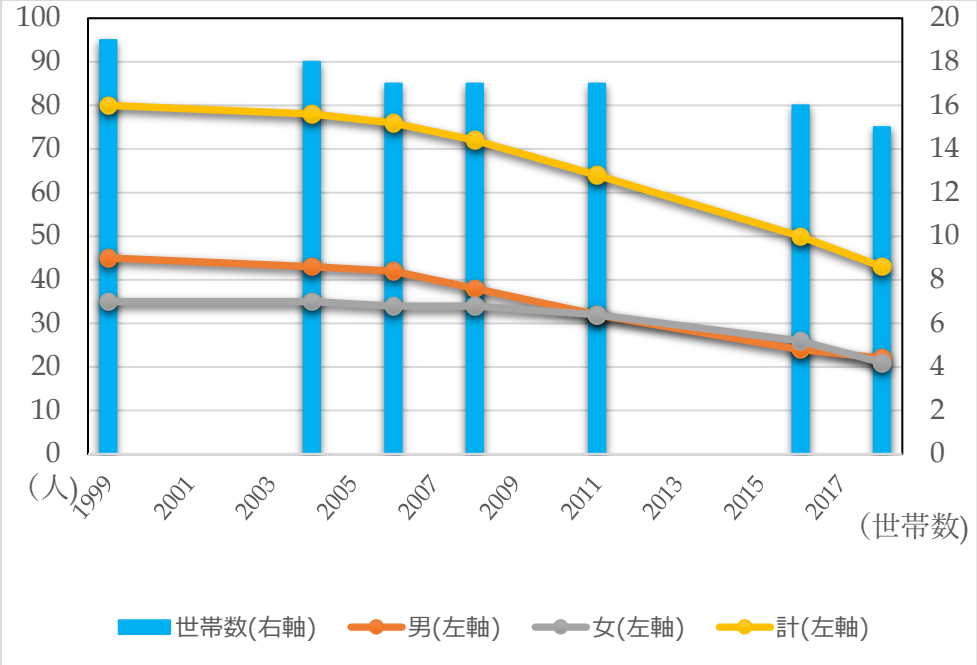
【出典】 行政区の取り扱いについて

３．喜多方市本村地区の現状

3.1 本村地区の人口

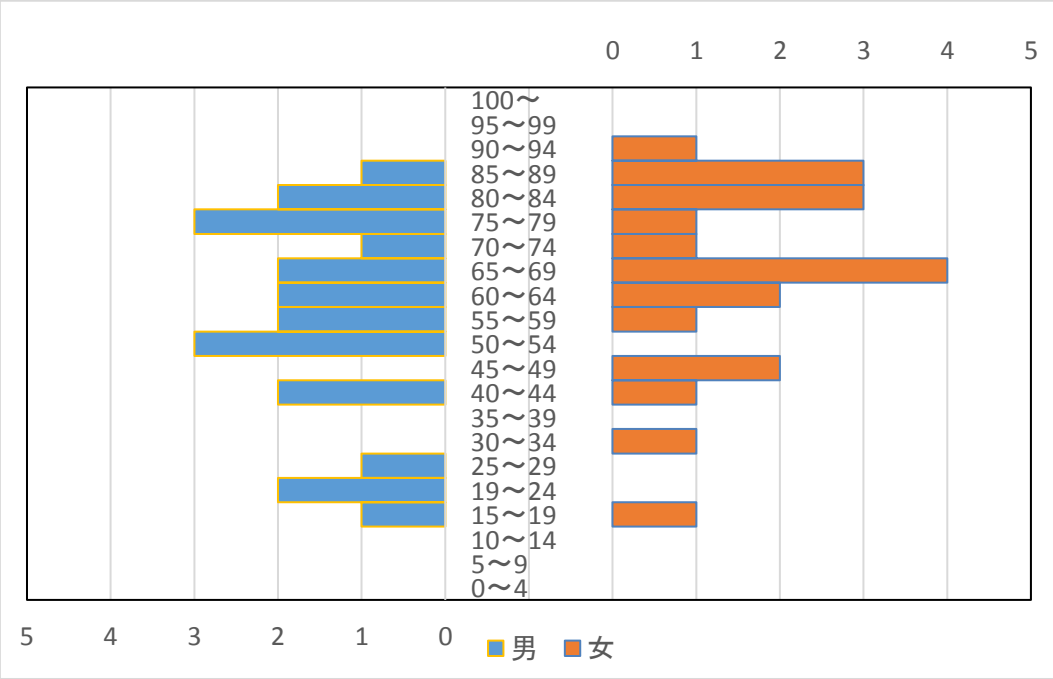
本村地区の現在の人口は 43 人（男性 22 名、女性 21 名）であり、高齢化率は 53%と非常に高い。また、人口は年々減少している。図表 5 は、喜多方市の提供データから作成した本村行政の人口と推移を表したグラフである。青色の世帯数に関しては、1999 年から 2018 年にかけて、4 世帯しか減少していない。しかし、黄色の総人口は、約半分も減少している。世帯数はあまり変化していないが、人口が約半分も減少していることから、若者層が本村地区から流出していることが考えられる。さらに、図表 6 の人口ピラミッドでも読み取れるように、子育て世代である 20 代から 30 代の人口が非常に少ない。また、14 歳以下の人口は 0 人であり、次世代を担う若者が極端に少なく、将来的に集落の存続が難しい状況である。

図表 5 本村行政区の人口と世帯数の推移



【出典】喜多方市役所提供データをもとに作成

図表 6　本村地区人口ピラミッド



【出典】 喜多方市役所提供データをもとに作成

3.2 本村地区の地域的特性

3.2.1 気候、地理的要因

3.2.1.a 本村地区の地形

喜多方市に位置する本村地区は、山で囲まれ、起伏の激しく坂が多い地形である。そのため本村地区では地すべりが起こりやすい。地すべりとは斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいう。 一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼす。また、一旦動き出すとこれを完全に停止させることは非常に困難である。写真のように本村地区では地すべり防止のため地すべり防止区域を設けている。（写真 1　参照）

また本村地区には地すべりの原因となる地下水を排水するためのパイプが地中に通っていて集水井が設置されている。集水井とは、地滑り地域の深層部で、最も地下水が集中している付近に縦井戸を設置して、地下水を集水し、自然排水させる井戸のことである。本村の集水井には、ライナープレートという部品が取り付けられており、長期間持つ構造となっている。（写真 2　参照）

写真 1 :地すべり防止区域

撮影日 2018/09/12

写真 2 :ライナープレートを用いた集水井

撮影日 2018/09/12

写真 3 :排水の様子

撮影日 2018/09/1 3

3.2.1.b　本村地区の降雪

気候は、日本海側気候に属し、また盆地特有の内陸性気候の特徴を有している。年平均気温は11℃前後で、年間降水量は 1,200 ミリメートル程度となっているが、寒暖の差が大きく、夏は気温が高く厳しい暑さが続く日もあり、一方、冬は寒冷で平均 1～2 メートル、多いところでは 3 メートルに及ぶ大量の積雪に見舞われるところもある豪雪地帯となっている。喜多方市のデータがないため、本村地区に近い西会津の累積降雪量を参考にして見てみると、累積降雪量はおよそ 5 メートルにもなることがわかる。

図表 7　福島県の累積降雪量

累積降雪量			2018 年 11 月 1 日 － 2019 年 2 月 15 日		
都道府県	市町村	地点	累積降雪量（cm）	平年比（%）	平年値（cm）
福島県	福島市	茂庭（モニワ）	192	65	296
福島県	福島市	福島（フクシマ）*	99	75	132
福島県	耶麻郡西会津町	西会津（ニシアイヅ）	489	105	467
福島県	耶麻郡猪苗代町	猪苗代（イナワシロ）	409	93	442
福島県	大沼郡金山町	金山（カネヤマ）	546	///	///
福島県	会津若松市	若松（ワカマツ）*	176	53	334
福島県	南会津郡只見町	只見（タダミ）	718	83	867
福島県	南会津郡南会津町	南郷（ナンゴウ）	555	78	716
福島県	岩瀬郡天栄村	湯本（ユモト）	289	60	479
福島県	南会津郡南会津町	田島（タジマ）	274	66	416
福島県	白河市	白河（シラカワ）*	32	30	107
福島県	南会津郡檜枝岐村	桧枝岐（ヒノエマタ）	767)	98	783

【出典】福島地方気象台

ヒアリング調査によって本村地区では斜面が多いため、特に高齢者の除雪作業が大変であるという人もいたが、中には除雪機が導入されたことで以前より除雪作業は楽になったという人もいた。しかしこれから本村地区の高齢化率が高くなるにつれ、除雪作業も大変になっていくと思われる。

3.3 本村地区の暮らし

3.3.1 通学・通勤・交通手段

最も本村地区に近い教育機関としては喜多方市立高郷小学校、高郷中学校があるが、歩いて通学することは難しい距離である。

通勤に際してもデマンド交通のみんべえ号を利用することは可能だが、火木金のみの運行であり、また第 1 便が 7:42 発、最終バスが荻野駅乗車だとすると 17:05 のため通勤に適しているとは言えない。そ

のため車が必須である。

図表 8 喜多方市高郷小学校、喜多方市立高郷中学校の位置

【出典】Google map をもとに作成

3.3.2 鳥獣被害

住民への被害としては、育てている農作物への影響が大きく、イノシシ、猿、熊が山から出てきて農作物を食べてしまい、収穫できる量が減ってしまう。また、農作業中にイノシシなどに出くわすという危険もある。喜多方市役所は電気柵の効果を感じてもらうために、地区に電気柵を配布し現在本村地区では 2 か所に設置されている。実際に電気柵がついている畑での被害は以前より減っている。鳥獣管理士である区長さんは鳥獣被害に対して積極的に対策を行っており、いつ頃、どんな動物が被害を及ぼしているのかを知るために夜中のビデオ撮影装置も区長が自ら実費で購入・設置した。

写真 4 ：電気柵（アニマルキラー）

撮影日 2018/09/23

3.3.3　交通

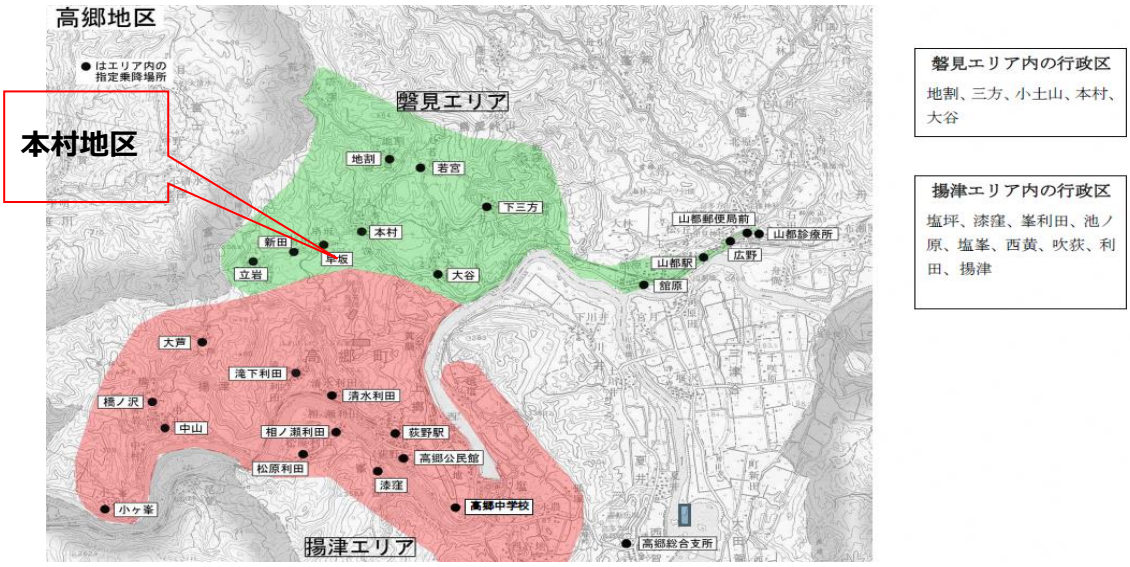
喜多方市は福島県の北西部、会津盆地の北に位置している。公共交通機関は、東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）の郡山駅～新津駅間を結ぶ磐越西線が市の南部を走っているほか、路線バス、高速バス、喜多方市による予約型乗合交通(デマンド交通・みんべえ号)が運行されている。

また、主な道路網としては、東北内陸部と北関東を結ぶ国道 121 号が市を南北に縦断し、新潟県と本県浜通りを結ぶ国道 459 号が東西に横断している。そのほか、県道が 22 路線、市道が 2,015 路線あるが、特に山間部においては、急峻で屈曲が多い道路となっている。平成 27 年 9 月には、会津地方の南北軸となる国道 121 号の機能を強化し、高速交通ネットワークを形成する「会津縦貫北道路」が全線開通した。

本村集落は福島県喜多方市高郷町の北西に位置し標高 300m、喜多方市高郷集落総合支所から約８キロ県道「上郷・下野尻線」が集落内を通り南会津町小清水集落に通じる。

交通手段は車がほとんどである。どこへ行くのにも車で、現在の本村地区の主要交通手段は自動車である。本村地区から喜多方市までは車で３０分ほどかかる。

【出典】喜多方市ホームページ



図表９　デマンド交通運行エリア（磐見エリア）

【出典】 喜多方市ホームページ「公共交通」

3.3.4ヒアリング調査結果

実態調査第１弾、第２弾の２回にわたり、全戸ヒアリング調査を行った。調査時の主な質問と回答を表にしてまとめた。対象とした世帯は 14 世帯である。

図表 10 ヒアリング調査結果

質問	回答
職場や買い物に行く交通手段・かかる時間	・主な交通手段は車。 ・買い物時には喜多方市や、坂下の方へ足を運ぶ。
本村の抱える問題	・農作物の獣害被害。せっかく作った野菜たちがすべて動物に持っていかれる時もあり、農作業のモチベーションが下がってしまう ・若者が少なく、集落が続いていくか不安 ・最近ではクマの出没が相次いでおり、外出するのが怖い。
本村の地域資源、魅力	・住民同士の仲がいいこと。お互いの家を行き来し、お茶会をよく行う。 ・自然が豊かであり、食べ物がおいしいこと。 ・水がおいしい
本村は将来どうなってほしいか	若者が来て、活気ある集落になってほしい。

写真 5 :ヒアリング調査の様子

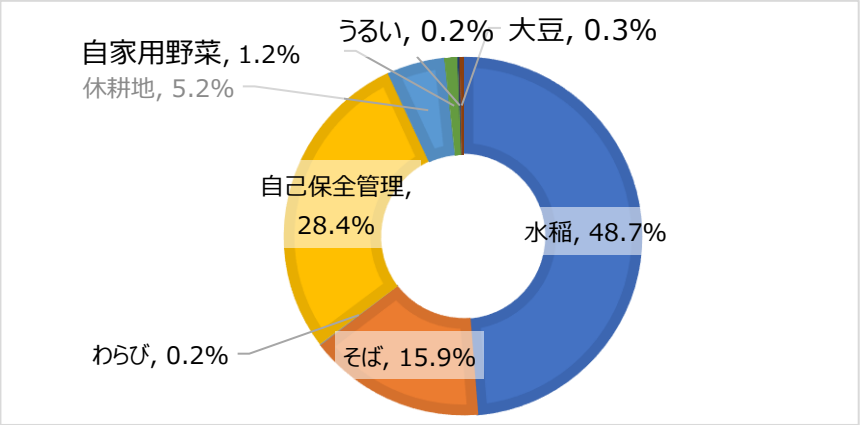
撮影日 2018/10/20

3.4 本村地区の産業

3.4.1 農業の外観

本村地区は農業が盛んである。図表 11 の耕地面積の使途を見ると、稲作とそばが農業生産量の約 6 割を占めていることがわかる。特に稲作に力を入れていて、本村地区の耕地面積のおよそ半分が稲作である。ほかにもニラやわらび、大豆の栽培も行っている。野菜などは各家庭で好みのものを栽培している。また、本村地区の農業は獣害被害が深刻である。山地であるため、農作物が野生動物に食い荒らされてしまうといったことがよく起こる。それによって、動物に食べられやすい農作物の栽培は難しいのである。

図表 11　本村地区の耕地面積の使途



【出典】喜多方市役所提供データをもとに作成

図表 12　本村行政区農作物作付け体系データ

No.	氏名	水稲				そば	わらび	自己保全管理	休耕地	自家用野菜	うるい	大豆	その他	合計	耕地面積
		コシヒカリ	ひとめぼれ	その他	合計										
1	A	6,194	0	0	6,194	3,682	162	577	3,091	0	0	0	0	7,512	13,706
2	B	0	0	0	0	0	0	4,517	0	0	0	0	0	4,517	4,517
3	C	0	0	0	0	0	0	5,520	0	0	0	0	0	5,520	5,520
4	D	878	0	0	878	0	0	0	0	0	0	0	0	0	878
5	E	16,251	0	0	16,251	4,783	0	1,037	177	947	0	0	0	6,944	23,195
6	F	2,901	0	0	2,901	0	0	251	0	349	0	308	0	908	3,809
7	G	16,429	0	0	16,429	1,127	0	0	530	0	0	0	0	1,657	18,086
8	H	4,822	0	0	4,822	2,984	0	0	0	0	177	0	0	3,161	7,983
9	I	0	0	0	0	1,497	0	3,961	0	0	0	0	0	5,458	5,458
10	J	4,106	0	0	4,106	2,347	0	0	0	0	0	0	0	2,347	6,453
11	K	0	0	0	0	0	0	4,448	0	0	0	0	0	4,448	4,448
12	L	0	0	0	0	0	0	3,440	0	0	0	0	0	3,440	3,440
13	M	0	0	0	0	373	0	2,267	1,707	0	0	0	0	4,347	4,347
14	N	0	0	0	0	0	0	4,006	0	0	0	0	0	4,006	4,006
15					0										0
16					0										0
17					0										0
	合計	51,581	0	0	51,581	16,793	162	30,024	5,505	1,296	177	308	0	54,265	105,846
						15.9%	0.2%	28.4%	5.2%	1.2%	0.2%	0.3%			105,846
※	田のみの作付体系であり、畑は含まれていない。											105,846			

【出典】喜多方市役所提供データ

図表 12 は本村地区の各農作物における耕地面積を世帯ごとに区分した図である。この図を見ると、稲作に大半の面積を使っていることがわかる。

3.4.2　稲作

本村地区の農業生産量で一番多いものがお米にあたる。中でも私たちが注目したものはエコ米である。エコ米とは、JA 会津よつばで統一策定した「会津エコ米栽培基準」に基づき栽培したお米である。土づくりや肥料にこだわり、農薬や化学肥料を通常より抑えて栽培しているため、環境にやさしいお米である。会津のエコ米には JA 会津指定のエコ米専用有機肥料を使用している。その有機肥料にはアミノ酸、ビタミン類など栄養源が含まれているため、土が肥沃になりおいしいお米ができるのである。加えて、本村地区の水田で使用されている水はホタルが生息できるほどきれいである。このようなこだわりにより、エコ米はお

米の味を評価する食味検定で最高ランクである特 A の評価をもらっている。

私たちはエコ米を通じて外部の方に本村地区に興味を抱いてほしいと思い、獨協大学のイベント(Earth Week Dokkyo)にて物産展を行い、エコ米を販売した。1 本 300 円の値段で、目標売上本数 120 本を完売することができた。大学関係者だけでなく近隣の方にも来ていただき、地区の知名度向上のお手伝いをさせて頂いた。

写真 6 ： Earth Week Dokkyo でのエコ米販売

撮影日 2018/12/13

3.4.3 そば・山菜

本村地区ではそばも主要な農作物の 1 つである。第一回実態調査の 1 日目で見た棚田にはお米以外にもそばが栽培されていた。私たちは 2 度の実態調査で、本村のそば粉を用いてそば打ち体験を行った。地区の方にそばの打ち方を教わり、自分たちで打った。そして、本村は多くの種類の山菜が自生している。実態調査でフットパスコースを散策した際、道中でわらびやぜんまいなどの山菜が見られた。

写真 7 ： そば打ち体験の様子

撮影日 2018/ 0 9/13

写真８：　親子桜

撮影日 2018/10/21

3.5 本村地区の地域資源

3.5.1 親子桜

親子桜は２本の桜が親子のように寄り添って生えていたことから集落の方が名付けたものである。親子桜の下には椅子とテーブルがあり、集落の人はそこでお茶会や花見をする。桜の種類はオオヤマザクラという比較的涼しい地域に自生している種である。本村地区にはほかにもソメイヨシノや、シダレザクラなどの桜が存在する。

写真９：フットパスの様子

撮影日 2018/10/20

3.5.2 フットパス

フットパス（foot　path）とはイギリスを発祥とする森林や田園地帯、昔ながらの風景やその地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小径（こみち）のことである。自然に囲まれたフットパスコースは、季節ごとに姿を変え、春夏秋冬楽しめる。また、都市部では見られない自然の山菜や植物が自生している点もフットパスの見どころである。本村のフットパスコースは、日本フットパス協会の方が視察に訪れるほど綺麗に整備されている。

3.5.3 棚田

本村地区では棚田が多く見られた。棚田は山の斜面や谷間の傾斜地に多く見られる水田のことであり、一つ一つ面積が小さいことや、傾斜による労力がかかるため、今は約半分の棚田が無くなっている。しかし、高郷町総合支所の高さと棚田ウォーク委員会は、美しい棚田を生かして地域を盛り上げるために、「たかさと棚田ウォーク」というウォーキングイベントを開催している。

図表 13　平成 30 年度のたかさと棚田ウォークのポスター

4. 本村地区の抱える問題点と課題

4.1. 現地調査から得られた問題点

（１）豪雪

ヒアリング調査によって冬場の豪雪による除雪作業が大変であるという問題点が浮き彫りになった。本村地区の道路はほとんど斜面であり、平坦な道路が少ない。

（２）有害鳥獣

ヒアリング調査で農作物の害獣被害を問題点に挙げる人が多かった。実際にイノシシやクマによって田んぼ一反分を荒らされてしまい、米が全くとれないこともある。被害を防ぐために電気柵を試用する田んぼもあるが、まだ実証実験段階のため、全ての田畑に設置できていない。

写真１０：　イノシシに荒らされた跡

赤丸内はイノシシによって荒らされた跡
撮影日 2018/０9/12

（３）土砂災害

本村地区は高低差が非常に大きい土地であり、集落に平坦な場所はほとんどないため、山の斜面に暮らしている。土地が低い場所や斜面に近い場所は土砂災害に巻き込まれるリスクが高い。

2018年5月20日に高郷町揚津地区で地滑りが起こったため、地下水を集めて排出する集水井を設置し、地滑りの対策を行っている。

写真１１：　地滑り防止区域

撮影日 2018/０9/12

（４）インフラ（交通、病院、学校、商業施設までの距離）

本村地区内に学校や商業施設がなく、病院に行くまで片道１時間、買い物に行くまで片道３０分はかかる。また、家から畑までの距離が遠く、坂道や足場の悪い道を通らなければ行くことができない。特に冬場は道路に雪が積もり、滑りやすくなるためさらに移動が大変である。本村での生活に車は不可欠であるとヒアリング調査の時に話す方も多かった。

（５）少子高齢化

進学先、就職先が本村内にないため、若者が出て行ってしまう。通勤、通学が困難であり住みにくいことも少子高齢化の理由である。また、子育てがしにくいため、出産後本村を離れる夫婦も多い。このような点から、少子高齢化が深刻化している。

4.2. 取り組むべき課題

これらの問題点、そして実態調査からわかったことを基にして、私たちは人口減少を課題に設定する。本村地区の人口は年々減少しており、特に若者の人数が非常に少ない。外部と本村地区の交流を生むために、まずは私たちが地区と外部とのパイプ役となり、企画を発案する。具体的な提案は次章で挙げる。イベント開催によって外部からの訪問が増え、交流が生まれ、地域全体の活性化に繋げることを目標とする。目標達成のためには、私たちチームメンバーがより本村地区のことを知り、地区の方々との信頼関係を築き、深い交流をすることが不可欠である。

5. 課題解決のための提案

前節では本村地区の抱える問題点から、取り組むべき課題を抽出したのでそれらの課題を念頭にここでは７つの提案について説明していく。なお、以下の提案企画に出てくる名称はまだ構想段階のものであり確定したものではない。

5.1 フットパスコースの整備とエコツアーの企画・開催

先ほど述べたようにイギリスではフットパスが盛んに整備されており、日本でも多くの地域で、それぞれの地域の特徴を生かしたフットパスが整備されている。歩くスローな視点から景色を見て感じることで、普段は素通りしてしまい気づかないような魅力を地域自身が発見、もしくは新たに魅力を作れるところがポイントである。誰でも気軽にできるため、近年地域の魅力を再発見する方法として注目されている。実際に日本には現在日本フットパス協会なるものがあり、フットパスの文化は徐々に浸透しつつある。以下ではフットパスマップの作製とエコツアーの具体案について詳しく説明する。

図表 14　提案①　フットパスコースの整備とツアーの企画

企画の概要	本村地区のフットパスコースを整備する。また住民の皆さんに協力していただき、外部の人がフットパスをしながら、本村地区に息づく様々な魅力を感じることができるようなエコツアーをメンバーと住民が一緒に企画し実施する。
期待される効果	エコツアーに参加することで、本村地区の魅力を気軽に散策することができ、また本村地区の地域資源であるフットパスの面白さを知ってもらうことができる。
具体案	・フットパスコースマップの作製。 ・それぞれのコースに道しるべとなる立て看板を設置。 ・エコツアーではそば打ち体験、農作業のお手伝いなどを行う。 ・課外活動の一環として学生を勧誘する。
参考にしたサイト	壮瞥町の移住情報サイト、洞爺湖展望と果樹園コース

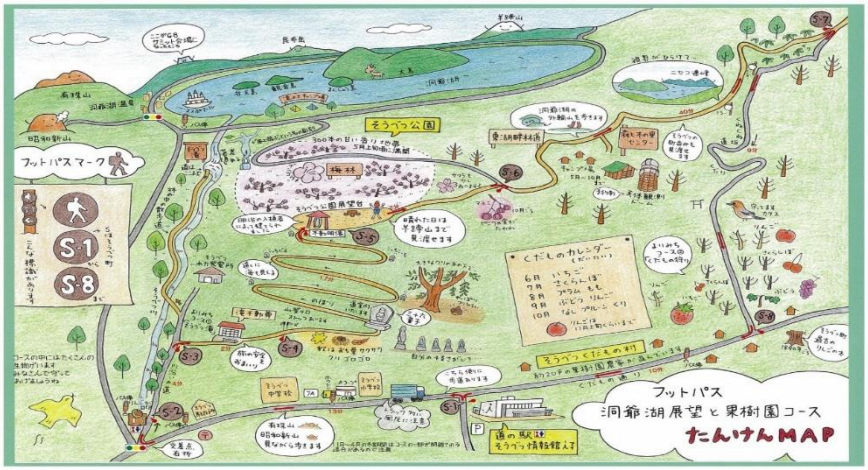
・フットパスマップの作製

本村地区には魅力的なフットパスコースが多数あるが、まだコースのマップは作られていない。まだ確定ではないがフットパスのガイドマップには本村の全体地図と、現地を訪れた時のイメージがわくようなイラストをつける。例えば親子桜、棚田などの地域資源のスポットを書き入れ、この場所ではどのような農作物が栽培されているかも書き入れる。マップがあれば、本村地区の地形を事前学習しておけるので現地を訪れた際のイメージが湧きやすい。またコースにはそれぞれ簡易的な立て看板を設置することで、自分の正確な位置を確認できるようにすることでより充実したコースにする。

・エコツアーの開催

フットパス散策を織り交ぜたエコツアーを開催し、多くの人に本村の魅力を気軽に感じてもらうことを目的とする。その他の企画としてはそば打ち体験、農作業や収穫体験の実施も考えている。農作業や収穫作業に慣れ親しんでいない都市部に住む人などに参加してもらうことで、田舎生活のおもしろさの一部を体験してもらう。

図表１５　フットパス洞爺湖展望と果樹園コースたいけんマップ



【出典】壮瞥町の移住情報サイト　フットパス洞爺湖展望と果樹園コースたいけんマップ

5.2.　雪かきボランティアとボブスレー大会の開催・企画

ヒアリング調査で冬期の除雪の問題が浮き彫りになった。高齢者世帯、単身世帯にとって冬期の除雪作業は重労働であり大変危険である。よって除雪ボランティアに来てもらうことで、除雪を困難としている世帯の助けとなる。ボブスレー大会についても同様に豪雪・斜面という点に困っているとの声が多かった。ボブスレー大会の開催はマイナス面に思われてしまう豪雪・斜面という点を活用することができる。本村地区住民の皆さん協力の元、地区の斜面の一部をボブスレーコースにする。参加者は住民の皆さん、そのご家族、大学生、などから募る。以下では除雪ボランティア志願者の募り方とボブスレー大会の企画開催について詳しく説明する。

図表１６　提案②　雪かきボランティアとボブスレー大会の開催

企画の概要	冬期に高齢者世帯の代わりに除雪ボランティアをする。また本村地区の豪雪斜面という問題点を生かしたボブスレー大会を実施する。
期待される効果	・除雪が困難な高齢者等の助けとなる。 ・ボブスレー大会を企画し実施することで住民と外部の人との交流が生まれる。
具体案	・部活の合宿等で、大学生に除雪ボランティアに来てもらう。
参考にした事例	札幌学院大アメリカンフットボール部が夕張で除雪ボランティア

・除雪ボランティア志願者の募り方

例えば部活、サークルの合宿等で大学生に冬期のトレーニングを兼ねて除雪ボランティアを行ってもらう。実際に札幌学院大のアメリカンフットボール部は筋力トレーニングを兼ねて部員たちが夕張市の社会福祉会館の車庫などで屋根の雪下ろし活動を行っている事例がある。

まずは私たちメンバーが実際に本村地区での除雪作業に取り組んでみる。除雪の経験を重ね、今度は

大学生を呼び込み、本村地区の住民と本村地区で除雪作業の経験がある私たちチームメンバーが参加者の皆さんと一緒に現場で除雪作業をする。

・ボブスレー大会の企画開催

勧誘の方法としては、高郷町にあるふれあいランド高郷にチラシを置いてもらい、本村地区周辺の住民も集客する。またチラシは獨協大学にも掲載し、同じく勧誘活動を行う。外部の人が多く訪れるイベントを本村地区で開催することで活気が生まれると考える。ボブスレー大会であれば子供も気軽に参加でき親子連れで楽しめると考える。

5.4. 案山子の作製設置

鳥獣被害が深刻な本村地区にかかしを設置することで被害を抑える。以下では制作予定のかかしの特徴について詳しく説明する。

図表１７　提案③案山子の作製設置

企画の概要	本村地区のそれぞれの農地に案山子を設置する。
期待される効果	・鳥獣被害対策になる。 ・ユニークな案山子が話題になる可能性があり、本村地区の認知度向上につながる。
具体的な企画	私たちが本村地区の藁を使用し、ユニークな案山子を設置する。
参考にしたサイト	案山子祭り・秋の味覚祭｜常陸太田市公式ホームページ

・案山子の特徴

私たちが作成しようとしている案山子はとてもユニークなものである。従来の案山子のイメージとは違い、良く工夫が凝らされた写真 １２のような面白い案山子を作成し設置する。茨城県常陸太田市では面白い案山子を集めて案山子祭りを毎年開催しており、毎年県外から観光客が訪れ賑わいを見せている。本村地区でユニークな案山子を作る活動が、メディアなどでも取り上げられる可能性もゼロではなく、本村地区の認知度向上につながる。

写真１２： 常陸太田市案山子祭りの様子

【出典】案山子祭り・秋の味覚祭から写真を引用

図表１８　提案④　餅つき大会の開催

企画概要	地域住民と協力して餅つきをする。ついた餅は地域住民と参加者でいただく。
効果	・若者と地域住民との交流が生まれる。 ・外部の人の勧誘。
具体案	・外部の人も招待して餅つきを行い、地域住民と交流する。 ・本村地区でとれたもち米を使って餅つき大会を行う。

第 3 回実態調査の 2 月 24 日に第 1 回餅つき大会を開催した。臼と杵は区長の物江さんから借りたものを使用した。第 1 回目は私たちチームメンバーと地域住民で行ったが、2 回目以降は外部の人を呼び込んで開催する。そのためには、宣伝用のチラシを作り、大学内や物産展で配布、掲示をして参加者を募集する。

5.5. 獨協大学におけるそば同好会の設立

本村地区の特産品であるそばを広めると同時に、食という分野を通じて本村地区のことを知ってもらうことが目的である。以下ではそば打ち同好会の活動とそばの栽培について詳しく説明していく。

図表１９　提案⑤　獨協大学におけるそば同好会の設立

企画概要	獨協大学内にそば同好会を設立し、食を通し本村地区の魅力を伝えていく。
期待される効果	・本村地区のそばのおいしさを外部に伝えることができる。
具体案	・本村地区でそばの栽培を行う ・月に一度、そば打ちを行う ・そばのアレンジレシピを考案する

・そば同好会の活動

本村地区の特産品であるそばのおいしさを外部の人に伝えたい、そして食を通して本村に興味を持ってもらいたいという思いからこの提案が生まれた。食という分野は地域活性化において重要な要素の一つであり、B 級グルメなどがその一例である。そば同好会では単にそば打ちをして食べるだけではなく、そば粉、そばの実などを使ったアレンジレシピも考案する。そば打ちには地域の子供たちや大学生も巻き込んでそば打ち体験会を開催し、そばの魅力、おいしさを知ってもらう。そのうえでそばが栽培された本村地区の紹介をして本村地区の認知度向上につなげていく。

・そばの栽培

本村地区で現在は使用されていない畑を、獨協大学そば同好会のそば畑とし借りて、種まき、収穫を自分たちで行う。そばの栽培については、最初住民の皆さんに教わりながら進めていく。

5.6. 高郷中学校寮の利活用の提案

本村地区には現在宿泊施設はない。宿泊施設は交流人口増加のために重要な要素である。そこで高郷中学校寄宿舎を宿泊施設として利活用できると考えた。以下ではどのように高郷中学寮を宿泊施設として活用するか詳しく説明する。

図表 20 提案⑥ 高郷中学校寮の利活用の提案

企画概要	現在は使用されていない高郷中学校寮を外部の人が宿泊できる場所として活用する。
期待される効果	多くの人が訪れ、結果的に高郷町全体の経済循環に繋がる。
具体案	提案①②で述べたようなエコツアー、雪かきボランティアで本村地区に訪れた外部の人が宿泊できる施設に。
参考にした事例	なし

・高郷中学校寮の活用

外部から人を呼び込み交流人口を増やしていくには、宿泊施設の設置が不可欠である。本村地区に外部の人が泊まれるよう施設はない。そこで現在は使用されていない高郷中学校寮を宿泊施設として活用できるのではないかと考えた。高郷中学校は本本村地区から車で約 15 分のところに位置している。高郷中学校の近くにはふれあいランド高郷という温泉施設もある。

5.7. 1 獨協大学学園祭での物産展実施

本村地区の農産物や特産物または加工品の市場拡大を目指すために物産展を開催する。まずは、そのはじめの一歩として獨協大学で毎年 11 月に行われる学園祭と獨協大学で年に 2 回行われている環境イベント Earth Week Dokkyo での物産展を実施する。以下では学園祭等の物産展実施について詳しく説明する。

図表 21 提案⑦獨協大学学園祭での物産展実施

企画概要	本村地区の農産物を物産展で販売する。
期待される効果	本村地区を外部に広報することができ、品物を購入してもらうことで経済循環に繋がる。
具体案	・獨協大学の学園祭、また Earth Week Dokkyo での本村地区農産物の販売を実施する。 ・そばの実演販売
参考にした事例	なし

・学園祭等の物産展実施

今年度は 2018 年 11 月 3 日に行われた獨協大学の学園祭（雄飛祭）にて獨協大学地域活性化プロジェクト大竹チームと合同で物産展を行い、大坪チームは、本村についての壁新聞を掲示し、喜多方市のパンフレットを配布した。次年度は、広報だけでなく農産物や加工品の販売も行う。また少しでも多くの人に物産展に訪れてもらうため獨協大学周辺の団地や住宅街に物産展開催のチラシを投函し、集客に力を入れる。

5.7.2 埼玉県草加市のふささら祭りでの物産展の実施

新たに獨協大学が位置している埼玉県草加市で開催される「草加ふささら祭り」でも物産展を出したいと考えている。

図表 22　提案⑦. 2　ふささら祭りでの物産展開催

企画概要	草加ふささら祭りに本村地区の物産展を出す。
期待される効果	幅広い方々に本村地区の広報ができ、多くの人に本村の商品を手に取ってもらいやすい。
具体案	・本村地区のエコ米、そば粉などを売り、本村地区の広報に努める。 ・本村地区が位置している喜多方市のパンフレットなども配布する。

・草加ふささら祭りとは

ふささら祭りとは、草加の観光コミュニティを推進し、都市軸の形成・産業振興・地域資源の開発に取り組み、市民参加による「賑わいとイベントによる地域再生」を外部に発信していくイベントのことである。

ふささら祭りは例年来場者数 20 万人を誇る草加市の大イベントである。このような場で物産展を開催することは一度に多くの人に本村地区を広報できるだけでなく、市場拡大において非常に価値がある。草加ふささら祭りは福島県外の人に本村地区をアピールすることができるよい機会ではないだろうか。

6.おわりに

私たち獨協大学地域活性化プロジェクト大坪チームは、学内の全学部に募集をかけ、有志によって集められたメンバーである。経済学部から外国語学部まで専攻が異なる学生が揃った。幅広い分野から学生が集まった形で、この「大学生の力を活用した集落復興支援事業」の活動をできたことは私たち学生にとって貴重な経験であった。また、この事業は、高郷町本村地区の方々をはじめ、喜多方市役所、獨協大学の職員の方々のサポートなしでは運営できなかった。

9 月 12・13 日に初めて実態調査で本村地区を訪れた際、Welcome 獨協大学の皆さん！という地区の方が作ってくださった大弾幕がよそ者である私たちを温かく迎えてくれた。ヒアリング調査の際には、住民の皆さんが口を添えて、「本村地区のいいところは住民同士が仲いいこと」と仰っていて、本村の団結力を感じた。10 月 20・21 日の第 2 回の実態調査では、「おかえりなさい！ 獨協大学の皆さん」という集会

所に貼られた大弾幕が私たちをやさしく迎えた。一度しか足を運んでいない場所にも関わらず、自分たちの故郷のような温かさを感じた。地区の魅力は緑があふれる自然の中にあるフットパス、棚田などがあるが、この地区の皆さんの温かさも一つの魅力として今後の活性化に繋げていきたい。

来年度からの実証実験では、今年度得られた課題や設定した目標に対する提案を実行していくとともに、獨協大学と本村地区の関係が永く続いていくように、新メンバーを募集し、後輩へ引き継ぎも行いたいと考えている。

最後に、本調査をするにあたり、本村地区の皆様、喜多方市役所農村振興課の皆様、「大学生の力を活用した集落復興支援事業」の運営事務局である福島県企画調整部地域振興課の皆様、そして獨協大学の職員の皆様など多くの方々にご協力いただいた。お世話になった多くの方々厚く御礼申し上げたい。

写真１３：　集会所にて地区の方々との集合写真

撮影日　2018/09/13

【参考文献】

【１】国土地理院（地理院地図）
https://maps.gsi.go.jp/#12/37.636937/139.821625/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0f0
【２】行政区の取り扱いについて
http://www.gappei-archive.soumu.go.jp/db/07huku/0711kitakata-shi/kyoutei/pdf

/22.pdf
【４】福島地方気象台
https://www.jma-net.go.jp/fukushima/snow_info/snow_info.html
【５】グーグルマップ
https://kitakata.fcs.ed.jp/%E9%AB%98%E9%83%B7%E5%B0%8F%E5%AD%A6%E6%A0%A1
【６】喜多方市ホームページ
https://www.city.kitakata.fukushima.jp/soshiki/kikaku/5129.html
【７】喜多方市ホームページ公共交通
https://www.city.kitakata.fukushima.jp/uploaded/attachment/3076.pdf
【８】高郷ウォークポスター　喜多方市ホームページ
https://www.city.kitakata.fukushima.jp/soshiki/sangyo-t/11024.html
【９】壮瞥町の移住情報サイト
http://www.town.sobetsu.lg.jp
【１０】札幌学院大学ホームページ
www.sgu.ac.jp/campuslife/club/sports/do050b00000004mf.html
【１１】常陸太田市ホームページ
http://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/page/page000367.html
【１２】ふささら祭り
https://soka-fusasara.com

その他：喜多方市役所提供データ